第18回日本小児耳鼻咽喉科学会総会･学術講演会
ランチョンセミナー1

小児急性中耳炎診療ガイドライン改訂に関する最新情報

座　長　**保富 宗城** 先生

和歌山県立医科大学 耳鼻咽喉科･頭頸部外科学講座 教授

演　者　**林 達哉** 先生

旭川医科大学病院 手術部長（准教授）耳鼻咽喉科･頭頸部外科

日時・会場　**2023年11月9日（木） 12:00～12:50**

Room A

別府国際コンベンションセンター（B-CON PLAZA） 3F 国際会議室

〒874-0828　大分県別府市山の手町12-1

共催：第18回日本小児耳鼻咽喉科学会総会･学術講演会／富士フイルム 富山化学株式会社

第18回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会
ランチョンセミナー1

2023年 11月 9日(木) 12:00~12:50
Room A
別府国際コンベンションセンター(B-CON PLAZA) 3F 国際会議室

小児急性中耳炎診療ガイドライン改訂に関する最新情報

The latest information on upcoming updates of Clinical Practice Guidelines for Acute Otitis Media in Children

林 達哉 先生 (旭川医科大学病院 手術部長(准教授) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

小児急性中耳炎診療ガイドライン(以下AOMガイドライン)は2018年版の発行から5年を経て、改訂の時を迎えました。2006年の初代から、それぞれの版にはそれぞれの時代背景に応じた役割があり、改訂はそれに対応すべく繰り返されてきました。同時に改訂を超えて引き継がれる基本的な考え方、戦略もあります。この基本的な部分は、その後AMR(薬剤耐性)対策という名称を与えられ、世界的な取り組みとして本邦の感染症診療にも大きな影響を与えました。抗菌薬を使用することは、耐性菌を選択し、耐性菌増加のリスクを常に孕んでいます。耐性菌が増えると制御不能な感染症が増え、患者の不利益に繋がります。私たち耳鼻咽喉科医は、1990年代後半にこの様な事態を経験しました。小児急性中耳炎の難治化です。この難治化を乗り切るための方策がAMR対策であり、言葉こそまだ存在しませんでしたが、AMRの理念のもとに作成されたのがAOMガイドラインなのです。

AMR対策には様々な要素を含みますが、耳鼻咽喉科診療のみならず、感染症診療における第一歩は「①ウイルス感染症には抗菌薬を投与しない」こととされています。さらに一歩進んで、「②細菌感染であっても抗菌薬投与のbenefitがそのriskやharmを上回らない限り投与しない」態度も求められます。さらに、もし抗菌薬を投与するなら「③治療効果が十分得られ、耐性株を選択しにくい抗菌薬選択と投与方法を採用する」必要があります。「④抗菌薬投与以外の治療法」は耐性株を選択しないため、AMR対策として有効でしょう。しかし、この様な治療がいつも成功するとは限りません。「⑤治療失敗例への対応」は欠かせないことになります。

AOMガイドラインを手にとって、上記の課題がどの様にクリアされているのか、是非探ってみてください。更に他の耳鼻咽喉科領域の感染症だったら、どう対応するのが良いかも考えてみてください。それができれば、大きく治療方針を誤ることは少なくなるはずです。

私たちはCOVID-19のパンデミックを経験して、中耳炎診療についても多くのことを学びました。2類から5類への移行は、中耳炎診療にも新たな課題をもたらす気配があります。

今の時代に求められるAOMガイドラインはどうあるべきか。来るべき改訂のアウトラインをお示ししたいと思います。